分野:器官系統病態学

主科目 副科目	内分泌・代謝学 Endocrinology and metabolism	DM_1403	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)

担当	教 授	准 教 授	講 師	助 教	客員教授・その他
–					
ちば	◎井上 大輔		伴 良行	井上 玲子	
–					

	内分泌・代謝学Ⅰ (1年次)				内分泌・代謝学Ⅱ (2年次)				内分泌・代謝学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	代謝疾患は血糖・脂質・ミネラル・ビタミンなどの異常を介して、内分泌疾患はホルモン作用の異常を介して、全身の臓器に異常をきたす疾患である。本課程では、代謝疾患および内分泌疾患の病態生理を理解し、それらの異常を察知し、診断し対処する能力を講義・演習・実習を通して習得することを目指す。代謝疾患:糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症の病態、鑑別診断、治療法の基本を学ぶ。 内分泌疾患:甲状腺疾患(甲状腺中毒症および甲状腺機能低下症)の病態、鑑別診断、治療法の基本を学ぶ。内分泌性高血圧の鑑別診断法を習得する。				「内分泌・代謝学Ⅰ」の講義・演習・実習を継続しさらに下記を学習する。代謝疾患:上記以外の病態、鑑別診断、治療法を学ぶ。内分泌疾患:視床下部-下垂体、副甲状腺、副腎、膵内分泌腺疾患の病態、鑑別診断、治療法のを学ぶ。糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患に関しては、患者のマネージメントに必要な知識を実践的に学ぶ。臨床研究の統計解析手法を理解できる。				「内分泌・代謝学Ⅱ」の講義・演習・実習を継続し、更に広く、内分泌・代謝疾患について見識を深め、個々の病態について、分子生物学的背景を学習する。また、経験した症例について、まとめ、発表できる能力を身に付ける。内分泌・代謝専門医および糖尿病専門医を取得可能な、知識および技能を習得することを目標とする。また臨床研究データを解析し、その結果を解釈できる。			
到達目標	1型および2型糖尿病の診断、治療ができる。脂質異常症の診断、治療ができる。甲状腺機能低下症、甲状腺ホルモン中毒症の鑑別診断ができる。骨粗鬆症の鑑別診断と治療ができる。内分泌性高血症の鑑別診断ができる。				特殊な病型を含めた糖尿病、糖代謝異常症のマネージメントができる。妊娠合併糖尿病のマネージメントができる。視床下部-下垂体、副甲状腺、副腎、膵内分泌腺疾患の病態、鑑別診断、治療法を理解する。臨床研究の統計解析手法を理解できる。				あらゆる内分泌・代謝疾患について理解し、その鑑別診断・マネージメントができる。経験した症例をまとめ、口頭、さらに論文で発表できる。関連した基礎実験を計画し、その結果を解釈できる。また、臨床研究データを解析し、その結果を解釈できる。			
事前事後学修	ハリソン内科学書の内分泌・代謝関連部分の通読。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				Williamsなどの代表的内分泌教科書の通読。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				J Clin Endocrinol Metabの臨床関連論文を毎月数本抄読。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度 40% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 60%				受講態度 30% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 70%				受講態度 20% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 80%			

■主な演習（講義・実習含む）

	内分泌・代謝学Ⅰ （1年次）	内分泌・代謝学Ⅱ （2年次）	内分泌・代謝学Ⅲ （3年次）
－	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
ちば	月 曜日 16 : 30 ～ 18 : 00	月 曜日 16 : 30 ～ 18 : 00	月 曜日 16 : 30 ～ 18 : 00
	内分泌代謝症例検討会	内分泌代謝症例検討会	内分泌代謝症例検討会
	月 曜日 18 : 00 ～ 19 : 00	月 曜日 18 : 00 ～ 19 : 00	月 曜日 18 : 00 ～ 19 : 00
	内分泌・代謝学特論	内分泌・代謝学特論	内分泌・代謝学特論
	木 曜日 13 : 00 ～ 16 : 00	木 曜日 13 : 00 ～ 16 : 00	木 曜日 13 : 00 ～ 16 : 00
	内分泌基礎実験／統計解析	内分泌基礎実験／統計解析	内分泌基礎実験／統計解析
－	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :

教科書・参考書

ハリソン内科学書、J Clin Endocrinol Metabなど

その他履修上の注意事項

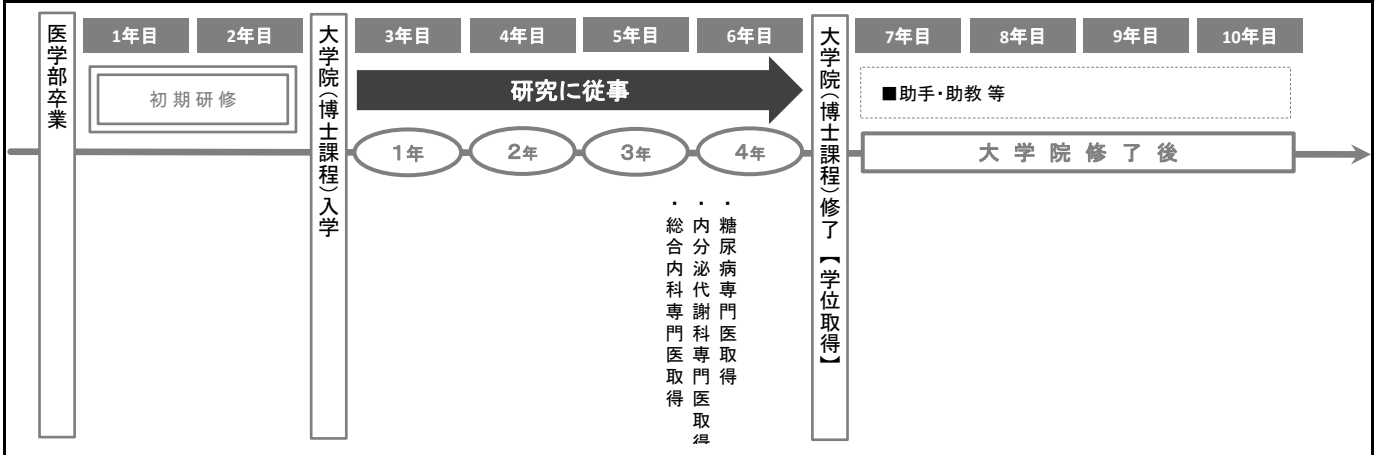
症例を通じて内分泌・代謝学を学ぶ場合には、一見些細と思われるものも含めて各症例の総ての問題点を拾い上げ、解決する姿勢が必須である。また、EBMが成立し得ない希少疾患も多く、自ら文献検索し診断・治療について考察する姿勢も必須である。大学院性は、少なくとも年1回国内の学会で発表し、2年次以降は、研究の成果を国際学会でも発表することが望ましい。実権手技などにおいて必要な場合は、国内外他施設で短期研修することもある。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目		
	副科目	内分泌系以外の内科学系、生理学系、人体病理学・病理診断学、脳神経外科学、運動器再建・再生学、小児科学、産婦人科学、泌尿器外科学、放射線診断学・放射線腫瘍学、リハビリテーション医学、精神神経科学など
	共通科目	代謝医科学特論

関連する専門医資格

卒後6年以上で内分泌代謝科専門医受験資格（日本内分泌学会）
卒後6年以上で糖尿病専門医受験資格（日本糖尿病学会）

キャリアパス（モデルコース）



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。